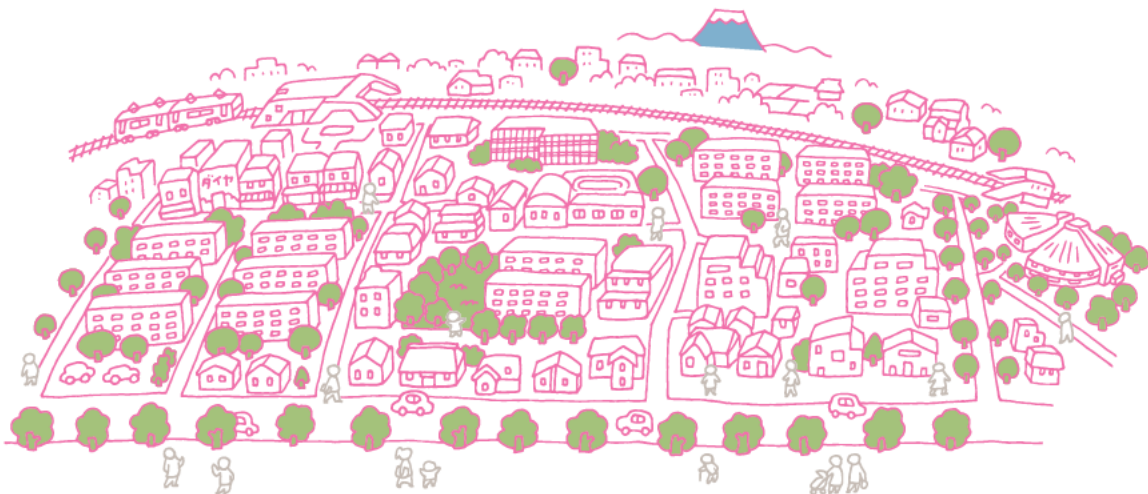


国立市 富士見台地域 重点まちづくり構想

令和 3（2021）年 5 月

「まちへの愛着」を
原動力に
市民一人ひとりが
手をつなぎ
未来へ



目次

01 はじめに

これからのまちづくりを共に考え、進めよう 002

02 構想の見方・使い方

～協働まちづくりの手引書として活用しよう～

1 構想の位置付けと構成 006

2 構想策定の背景となる社会状況 010

03 構想づくりという参加と対話のプロセス

1 構想づくりの体制 016

2 場所の価値と取組ニーズ 020

3 富士見台地域まちづくりの6つの整備方針 024

4 整備方針に基づく、まちをよくする取組 026

04 重点プロジェクト～まずは取り組もう～

1 重点プロジェクトとは 034

2 重点プロジェクトを推進する上での姿勢 035

3 重点プロジェクト01～10	036
project 01	
市民まちづくりプロジェクト100（通称：市民100プロ）	040
project 02	
さくら通りを軸とした富士見台地域の魅力向上プロジェクト	044
project 03	
まちなかの居場所の魅力化・拡充プロジェクト	052
project 04	
グリーンインフラを活用したまちの回廊化プロジェクト	060
project 05	
谷保駅を含めた商業地のにぎわいづくりプロジェクト	068
project 06	
（仮称）矢川プラスを拠点とした国立市の新たなにぎわいづくりプロジェクト	073
project 07	
UR 国立富士見台団地をモデルとした支え合いの仕組みづくりプロジェクト	082
project 08	
UR 国立富士見台団地をモデルとした住みたくなる、 住み続けられる環境整備プロジェクト	092
project 09	
未来に向けた重点エリア検討プロジェクト （重点エリア：市役所を中心とした公共施設が集積するエリア）	100
project 10	
市民と行政とのまちづくり体制構築プロジェクト	106

05 構想の実現に向けて

1 重点プロジェクトに取り組むにあたって	112
2 協働まちづくりの体制	112
3 始めよう、市民100プロ	113

資料編	117
-----	-----

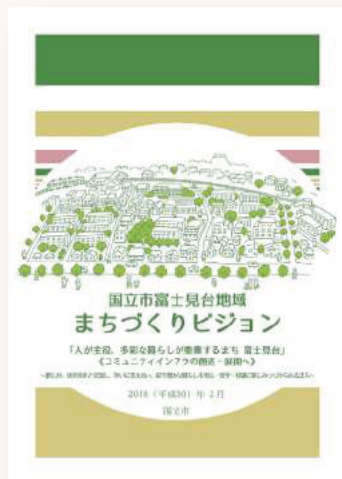
1 構想の位置付けと構成

(1) 位置付け

構想は、ビジョンで示された将来像、「人が主役、多彩な暮らしが重奏するまち 富士見台」を実現するために、富士見台地域においてまちづくりを行う際に関係者が共有すべき 6 つの整備方針および重点的・優先的に進める 10 の重点プロジェクトを示したものです。

構想は、単に行政だけが行う施策を取りまとめたものではなく、市民と行政が協働で進めるまちづくりの取組とプロセスを専門家のアドバイスを受けてまとめた富士見台地域における「協働まちづくりの手引書」となります。

今後は、この手引書を活用して、市民、地域活動団体、事業者等、行政が協働でまちづくりを進めるとともに、次世代を担う子どもたちも自分が住むまちの魅力を知り、まちづくりに関わるきっかけになればと願っています。



平成 30（2018）年 2 月策定
国立市富士見台地域まちづくりビジョン

富士見台地域の魅力や今後想定される課題を踏まえながら、まちづくりの方向性を示した

この将来像は、富士見台地域の魅力を活かしながら、さらに伸ばすための 3 つの視点（暮らし・コミュニティ・街）を踏まえたものです。「人間を大切にする」という国立市のまちづくりの基本理念に基づき、現在お住まいの方々の居住の安定を大切にしながら、積極的に若者・子育て世代を呼び込み、国立市の次の 50 年を見据え、他の地域にとってもモデルとなるような先進的なまちづくりを進めていきたいと思ひます。



〔国立市ホームページ〕
国立市富士見台地域まちづくりビジョン（平成 30（2018）年 2 月策定）

まちの将来像

人が主役、多彩な暮らしが重奏するまち 富士見台

～コミュニティインフラの創造・展開～

多世代がつながり、支え合い

だれもが安全、快適で豊かな暮らしを楽しみつづけられるまち



令和3(2021)年5月
国立市富士見台地域重点まちづくり構想

将来像を実現するために、具体的な整備の方針および
重点的・優先的に進める重点プロジェクトを示す

協働まちづくりの 手引書

- 富士見台地域まちづくりの6つの整備方針
- 整備方針に基づく、まちをよくする取組

重点的・優先的に
取り組むべきこと

10の重点プロジェクト

できることから始める
小さな成功体験を積み重ねる

重点プロジェクトの推進

1 重点プロジェクトとは

わたしたちは、これまで共有してきた今の富士見台地域のまちの魅力を活かしながら将来にわたって持続可能なまちを実現していくため、まちづくりのツボ^(※)に対して、段階的にアプローチし、その効果を見ながら次の一手を打ち続けていく必要があります。

わたしたちが大切にしたい場所の価値が集積している場所やまちづくりのニーズが多かった取組を踏まえ、重点的・優先的に取り組むべきことを重点プロジェクトとしました。

(※) たくさんの暮らしを支える魅力的な場所と、支え合いを生む豊かなコミュニティ活動等

project
01

市民まちづくりプロジェクト 100（通称：市民 100 プロ）

project
02

さくら通りを軸とした富士見台地域の魅力向上プロジェクト

project
03

まちなかの居場所の魅力化・拡充プロジェクト

project
04

グリーンインフラを活用したまちの回廊化プロジェクト

project
05

谷保駅を含めた商業地のにぎわいづくりプロジェクト

project
06

（仮称）矢川プラスを拠点とした国立市の新たなにぎわいづくりプロジェクト

project
07

UR 国立富士見台団地をモデルとした支え合いの仕組みづくりプロジェクト

project
08

UR 国立富士見台団地をモデルとした住みたくなる、住み続けられる環境整備プロジェクト

project
09

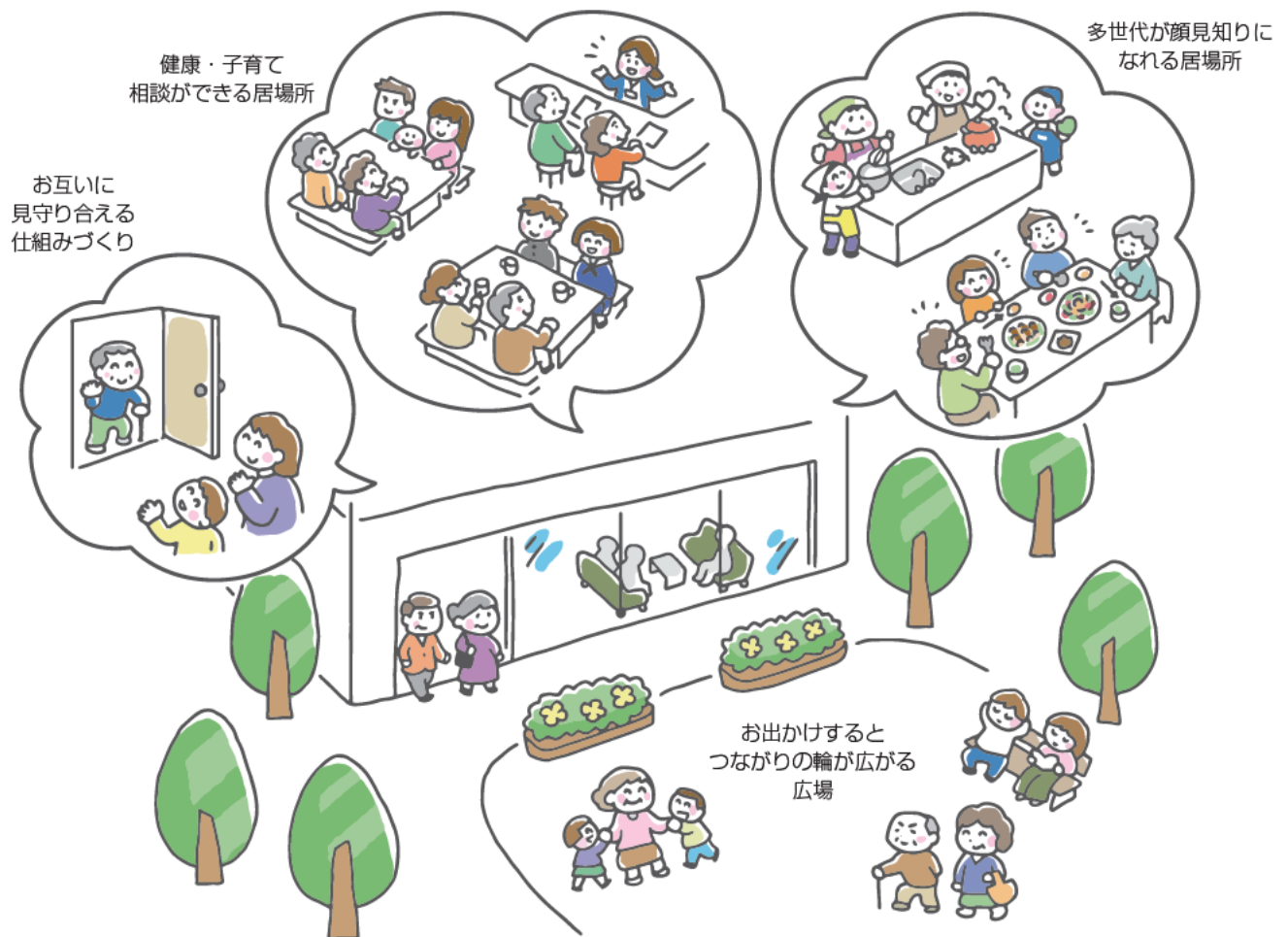
未来に向けた重点エリア検討プロジェクト
（重点エリア：市役所を中心とした公共施設が集積する周辺エリア）

project
10

市民と行政とのまちづくり体制構築プロジェクト

project
07

UR 国立富士見台団地をモデルとした 支え合いの仕組みづくりプロジェクト



国立市では、高齢者から乳幼児までが、住み慣れた地域で自分らしい暮らしを人生の最後まで続けられる仕組み「地域包括ケアシステム」の実現をめざしています。「地域包括ケアシステム」の実現には、住まい以外の、自分らしく過ごせる居場所が大切であり、居場所は地域や自分以外のだれかとつながることによる、“安心”を生む場所です。

また、目的を共有し、同じ時間を過ごすことでの“生きがい”や“支え合う力”を育む場所としても機能します。

UR 国立富士見台団地においても、これまで

団地自治会を中心に様々な居場所がつけられ、周辺地域の住民も巻き込みながら、豊かなコミュニティを形成してきました。しかし、近年、若者世代が減り、独居高齢者も増えたことで、居場所の運営や参加が難しくなるケースも少なくありません。

今一度、団地に活気と人のつながりを生み出すためには、身近なコミュニティのなかでお互いが見守り、支え合う仕組みや体制の再構築が必要です。その取組は、少子高齢化が進む、今後の国立市のモデルにもなることから、試験的にそして意欲的に進めてまいります。

団地をモデルとした居場所づくり



地域包括ケアシステムの実現に向けた第一歩の取組として、UR 都市機構と連携しながら、UR 国立富士見台団地で居場所が不足する場所に、これからのモデルとなる新しい居場所づくりに取り組みます。

新しい居場所は、団地居住者を始めとした地域住民が集える場であると同時に、地域包括支援センター職員や医療・介護・福祉等の多職種が立ち寄り、連携する場ともなります。

地域の人にとって、敷居が低く、気軽に暮らしの相談ができる居場所を通して地域課題を把握し、包括的な支援にも繋げていく持続可能な運営を富士見台モデルとして構築し、国立市全体へ展開していきます。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

居場所のイメージ共有・運営体制の検討

団 事 行・気軽に相談できる居場所のイメージを検討する〔団地自治会、UR 都市機構、高齢者支援課・地域包括ケア推進担当／富士見台地域まちづくり担当〕

市 民 団 事 行・居場所の運営（目的、人員体制、活動内容、頻度、空間レイアウトなど）の具体的な計画を検討する〔市民、地域活動団体、団地自治会、UR 都市機構、高齢者支援課・地域包括ケア推進担当／富士見台地域まちづくり担当〕

団 事 行・居場所の行政施策としての位置付けを整理する〔団地自治会、UR 都市機構、高齢者支援課・地域包括ケア推進担当／富士見台地域まちづくり担当〕

〔現状・課題等〕

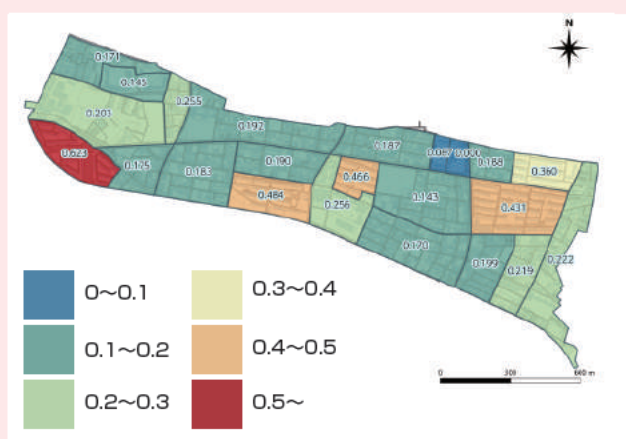
あらゆる世代の居場所の重要性については、重点プロジェクト 03 で紹介しましたが、高齢社会においては、安心して住み続けられるように、身近な場所に見守りや支え合い、気軽に相談できる拠点としての居場所づくりの有効性が認められています。

東京大学との共同研究では、社会的なつながりが少ないことが要支援・要介護認定の状態になりやすいことに関連する可能性が高いことが示されています。富士見台地域の住民は他地域と比べて、「若い世代へ自分から声掛けを行うことが少ない」「心配・愚痴を聞いてくれる相手、世話・看病をしてくれる相手、家族・友人以外の相談相手がいない住民が多い」ことがわかっています。また、国立市内の要支援・要介護認定を受けていない 65 歳以上の高齢者のうち、富士見台地域は、他地域と比べて「独居者が多い」「家族と同居しているが日中一人になる方が多い」「月に 1 回以上、家族や友人などとの共食の機会が少ない」ことがわかっています。その中で、UR 国立富士見台団地は、富士見台地域の中でも 65 歳以上の人口割合が高く、15 歳未満の人口割合が低く、少子高齢化が進展していることが分かりました。

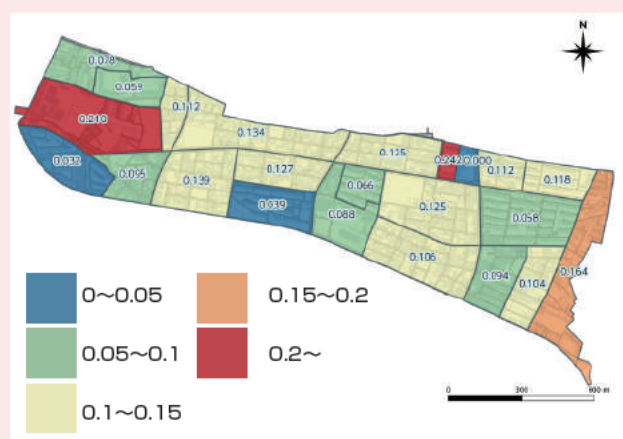
団地内にもたくさんの居場所・活動がありますが、活動場所が限られており、自宅から遠い場合には、参加したいけど遠くて不便と感ずることなどがあります。また、身近に暮らしの相談や健康相談ができる場がないため、問題が深刻化する可能性があります。

超高齢社会に対応するため、少子高齢化が進展する UR 国立富士見台団地に団地居住者の見守りを担い、おでかけしたいと思うきっかけとなる気軽に相談できる居場所や、食事を共にできる機会・居場所づくりが求められています。それをモデルに、住民同士が、お互いに顔見知りとなり、支え合いを育む仕組みづくりを進め、国立市の「地域包括ケアシステム」の実現をめざす必要があります。

小ゾーン（※）ごとの人口比率



65 歳以上の人口比率



15 歳未満の人口比率

（※）市街地の構造がある程度類似した範囲で富士見台地域を 23 に区分した領域

（出典：小規模な空間を単位とした富士見台地域の空間的・社会的環境に関する指標の可視化（東京大学共同研究））

STEP
2

次に取り組みたいこと

UR 都市機構と連携した新たな居場所の整備と継続的な運営体制の構築

- 
 ・ UR 国立富士見台団地を含めた富士見台地域の地域包括ケアの実現に向け、UR 都市機構と行政との協定締結等により連携を強化する [UR 都市機構、行政]
- 
 ・ 居場所運営に関わる制度を活用し、実験的な取組からスタートする [市民、団地自治会、高齢支援課（通所型サービス B、独居高齢者における包括的支援、フレイルサポーターの養成）／健康増進課（いきいき百歳体操・まちかど保健室）]

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

居場所を含めた包括的支援と住まい方が連動した地域包括ケアの増進・「富士見台モデル」の展開

- 
 ・ 包括的支援^(※)による地域で安心して住み続けられる住環境を実現する [市民、団地自治会、市民、UR 都市機構、行政]

(※) 個人が抱える個別課題の解決ノウハウが積み重ねられ、個別対応だけでは解決できない課題は、地域課題として地域ぐるみで解決する総合的な仕組み



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

まちをよくする取組

- [1] 運営をひと工夫して協力者や参加者を増やそう
- [2] 既存の居場所の運営ノウハウを学ぶ機会をつくろう
- [3] 居場所を積極的に情報発信しよう
- [4] 子どもと高齢者の交流の場となる居場所を増やそう
- [10] 保育園の地域拠点化を進めよう
- [12] 団地の集会所の居場所機能を充実させよう
- [22] 歩ける範囲に医療・福祉の総合的な拠点の整備を検討しよう
- [23] 災害時の安心を支える防災の拠点の整備を検討しよう
- [24] 歩ける範囲に医療や健康ニーズに応える場や機会を増やそう
- [25] 気軽に相談できる仕組みづくりを進めよう

既存の地域活動が連動した日常的に顔の見えるつながりづくり



今ある地域内のつながりを生み出す活動の拡充と連携を図りながら、防犯・防災や見守り、安心して住み続けられる居住環境の継続のため、住民同士が顔を合わせ、交流できる場や機会の創出を図っていきます。

STEP
1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

持続可能な地域のつながりづくりに向けた現状把握と改善のイメージ共有

- 行・ 現在の団地の居場所やつながりづくりに関する活動の現状と課題を整理する〔団地自治会、UR 都市機構、高齢者支援課・地域包括ケア推進担当／富士見台地域まちづくり担当〕
- 行・ 既存の居場所活動の改善アイデアを検討する〔団地自治会、UR 都市機構、高齢者支援課・地域包括ケア推進担当／富士見台地域まちづくり担当〕
- 行・ 居場所となる団地の空間の活用を検討する〔団地自治会、UR 都市機構、高齢者支援課・地域包括ケア推進担当／富士見台地域まちづくり担当〕

〔現状・課題等〕

UR 国立富士見台団地では、団地自治会が主催する居場所のほか、学生、NPO 団体、子育て団体、個人など、様々な主体が、子育て広場や、小中学生の放課後の居場所など、魅力的な居場所を既に運営しています。こうした場で展開されている活動は、多世代が支え合うためのベースとなる人のつながりを生み出してきました。

これらの住民同士のコミュニティづくりを担う活動や取組の蓄積されたノウハウを次世代へ伝え、活動を継続し、さらに展開していくための体制づくりが課題になっています。



居酒屋きんぞう



ここたの(くに)たち富士見台人間環境キーステーションが運営

STEP
2

次に取り組みたいこと

さらなる魅力化に向けた活動内容・運営体制の検討

- 市民・団体・事業・行政・居場所の運営（目的、人員体制、活動内容、頻度、空間レイアウトなど）の具体的な計画を検討する〔市民、地域活動団体、団地自治会、UR 都市機構、行政、高齢者支援課・地域包括ケア推進担当／富士見台地域まちづくり担当〕
- 市民・団体・事業・行政・団地自治会と地域活動団体、事業者等が活動や課題を意見交換する機会をつくる〔市民、団地自治会、地域活動団体、事業者等、富士見台地域まちづくり担当〕
- 行政・居場所運営に関わる制度を活用・拡充する〔子育て支援課（地域子育て支援拠点事業）／児童青少年課（子どもの居場所づくり補助金制度、様々な子どもの体験・交流事業の推進）／教育指導支援課（インクルーシブ教育推進事業・放課後学習支援事業）〕

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

地域の居場所や活動の連携による支え合いネットワークの展開

- 市民・団体・事業・居場所活動団体同士の情報交換や相互の運営補完のために定期的に交流する〔市民、地域活動団体、事業者等〕
- 行政・防災、防犯、福祉、交流等各活動における団地自治会と地域関係団体の協働を実践する〔防災安全課／まちの振興課／富士見台地域まちづくり担当〕
- 行政・コミュニティづくりに係る事業を活用・拡充する〔まちの振興課 コミュニティ・市民連携係（コミュニティ助成事業、地域防災組織育成助成事業）／児童青少年課（青少年健全育成事業、地域の課題解決入門講座の開催、地域の課題解決プロボノプロジェクト）〕



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

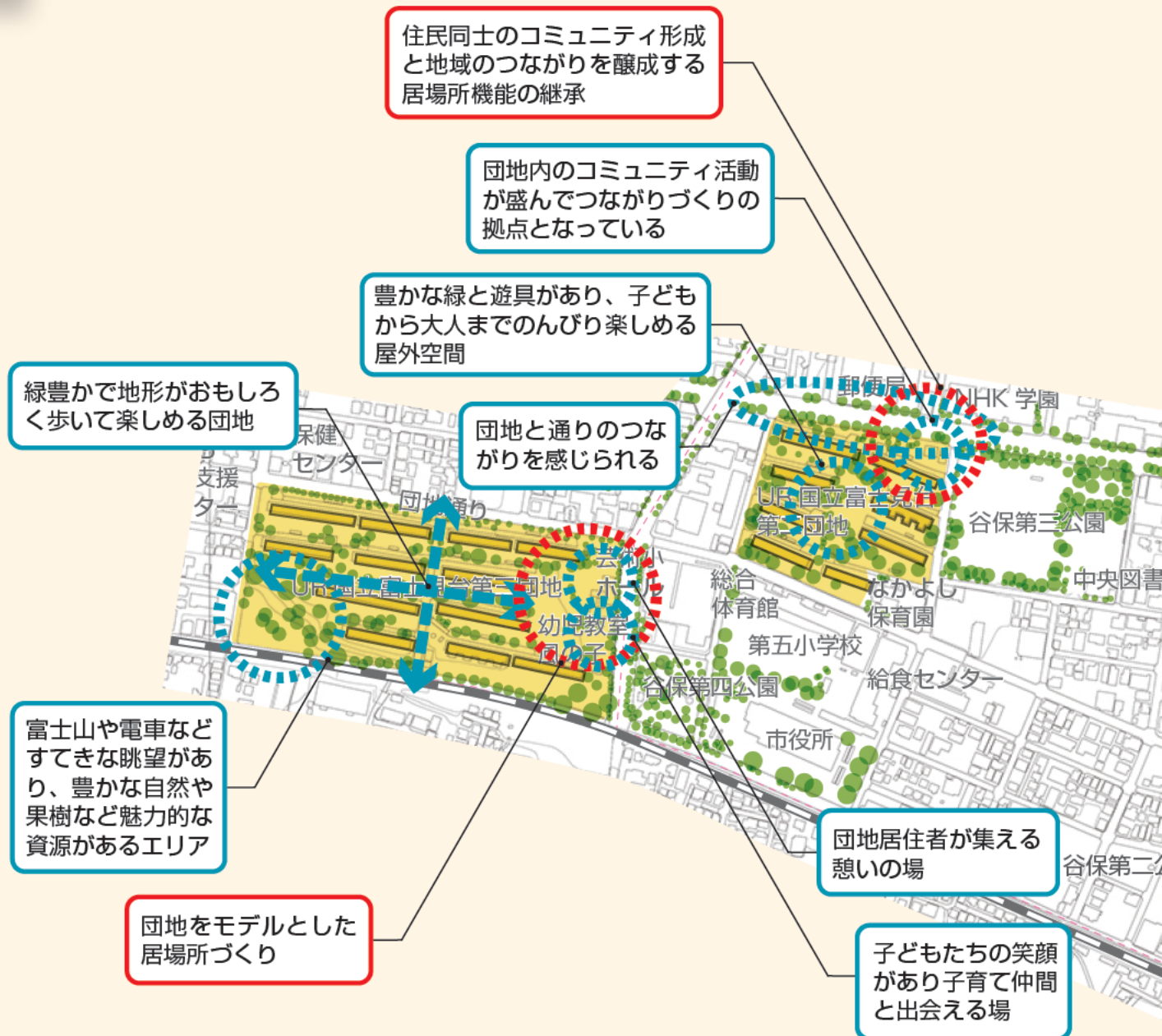
まちをよくする取組

- [1] 運営をひと工夫して協力者や参加者を増やそう
- [2] 既存の居場所の運営ノウハウを学ぶ機会をつくろう
- [3] 居場所を積極的に情報発信しよう
- [4] 子どもと高齢者の交流の場となる居場所を増やそう
- [13] 団地の空き空間を多世代のコミュニティを育む居場所として活用しよう
- [22] 歩ける範囲に医療・福祉の総合的な拠点の整備を検討しよう
- [23] 災害時の安心を支える防災の拠点の整備を検討しよう
- [24] 歩ける範囲に医療や健康ニーズに応える場や機会を増やそう
- [40] 若者・子育て世代・働き世代が自由に使える場づくりを検討しよう
- [44] 安心して住み続けられるよう居住者同士のコミュニティを強化しよう
- [86] 自治会などの小さな単位での助け合いの仕組みを考えよう
- [87] 新住民が地域コミュニティとつながれる機会をつくろう
- [88] 居場所に多様な人が関われる運営の工夫をしよう
- [90] 多様な人が関われる参加型の機会を創出しよう
- [93] 自治会の活動基盤を整えよう
- [94] 地域内の人的交流を深めよう
- [95] 多世代交流、国際交流、団体同士の交流が連動し、既存の活動のさらなる充実を図ろう
- [96] 地域のつなぎ役（コーディネーター）を育成しよう
- [100] 自治会活動に子どもたちが楽しんで参加できるようにしよう

[空間づくりのポイント]

※区域線や計画線は、大まかな位置を示すものです。
(正確な位置を示すものではありません)

UR国立富士見台団地をモデルとした支え合いの仕組みづくりプロジェクト



凡例



重点プロジェクト推進
の中で継承したい価値



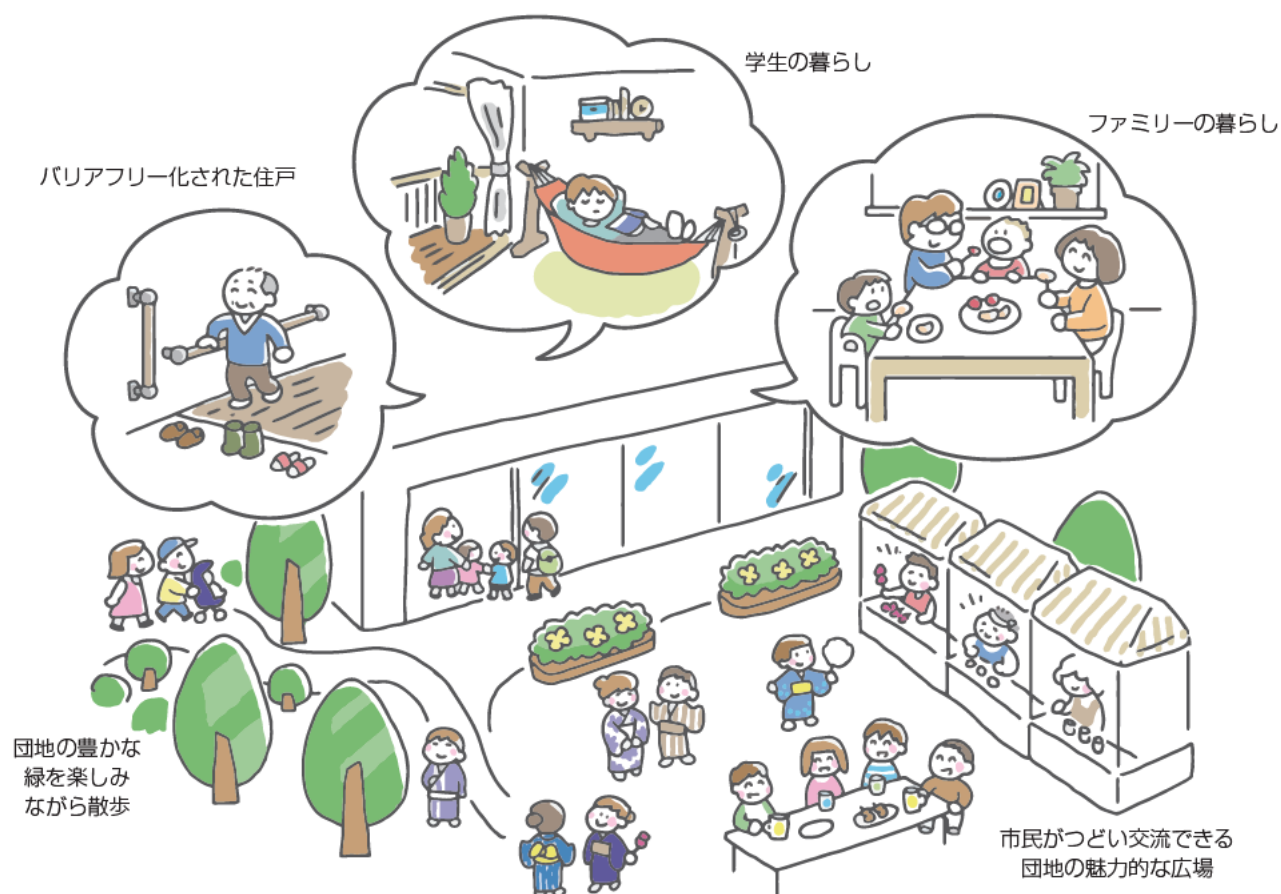
ニーズを踏まえた
空間づくりのポイント

- 公共・公益施設等
- 団地
- 公園
- 農地
- 商業施設
- 医療・福祉施設
- 樹木
- 商店街
- 区域
- 線路



project
08

UR 国立富士見台団地をモデルとした 住みたくなる、住み続けられる環境 整備プロジェクト



富士見台地域は、UR 国立富士見台団地の建設を契機に基盤整備されたまちです。

団地自治会を中心に長年培われてきた人のつながりや豊かなコミュニティ活動は、まちに活気と賑わいを生み出してきた、今後も欠かすことのできない「まちの価値」です。

しかし、バリアフリー化されていないことによる生活上の不便さ、経年化による機能や魅力の低下など、現在の暮らしのニーズとのミスマッチも指摘され、高齢者の外出や社会参加に大きな影響が出ています。高齢化するこれからの社会に対応するため、早急に対応策を考える

必要があります。

また、かつて団地の働き世代・子育て世代が、富士見台地域に活気と賑わいを生み出したように、今後も多世代がバランスよく住まい、支え合う仕組みが必要です。

しかし、現在は若者世代の入居が進まず、空室が増え、日常生活においても防災面等で暮らしの不安が高まっています。

これからの富士見台地域のため、団地の魅力を最大限に引き出し、若者世代が住みたくなって、高齢者も住み続けることができる住環境の向上をめざしていきます。

多世代にとって安心で魅力的な住宅・住環境づくり



住まう・暮らす視点から、団地居住者・地域住民・UR 都市機構との連携・協働により、多世代にとって魅力的な住宅・住環境づくりの方策を検討していきます。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

暮らしやすさの向上や若者・子育て世代の入居促進のための住宅課題の整理

団・事・行・高齢者が暮らし続けられる、若い世代の居住が促進される住まいづくりの課題について団地自治会、UR 都市機構、行政で協議できる場を継続する〔団地自治会、UR 都市機構、富士見台地域まちづくり担当〕

〔現状・課題等〕

UR 国立富士見台団地は、緑豊かで魅力的な住環境を有しています。一方で、昭和 40 年に建設され時間の経過とともに経年変化の進展、設備の更新やバリアフリー化への対応等が求められるとともに、防災・防犯性の向上、上下移動のしやすさの確保、新たな居住者が住みたくなる住宅機能の確保、暮らし続けられる家賃負担のあり方などの対応策を検討する必要があります



上空から見る UR 国立富士見台団地
(平成 27(2015)年度 飯島浩さん撮影 / 団地住まい)

STEP
2

次に取り組みたいこと

暮らしの課題解決による多世代が住みたくなる方策の検討

団・事・行・現在の居住者が暮らしやすい、若い世代にとっても魅力的なライフスタイルを送れる、防災・防犯上も安心など、多様な観点から住み続けられる住まいづくりの方策として、様々な制度活用や団地再編の手法等（団地の住環境の価値を高める再整備手法／リノベーション^(※1)、コンバージョン^(※2)、建替え等）を検討する〔団地自治会、UR 都市機構、富士見台地域まちづくり担当〕

(※ 1) 改修等により既存の建物等の住みやすさ・使いやすさを向上させること

(※ 2) 既存の建物等の用途を、違う用途に変えること

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

多世代が住みたくなる、住み続けられる持続可能な団地環境の実現

市・民・団・事・行・多世代が安心・安全に住みたくなる、住み続けられるハード・ソフトの団地住環境の整備を行う〔市民、団地自治会、地域活動団体、事業者等、UR 都市機構、行政〕



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

まちをよくする取組

- [39] 学生に住みやすい賃貸住宅の仕組みを考えよう
- [41] 若い世代や新たな居住者に向けて団地暮らしの魅力の発信に力を入れよう
- [42] 安心して住み続けられる仕組みを考えよう
- [43] だれでも快適に暮らせるよう団地の上下移動の改善を考えよう
- [45] 経年変化や防災上危険な機能や設備の更新を検討しよう
- [47] 団地での行事や活動をもっと多くの人に発信し、地域とのつながりをつくろう
- [48] 大学と連携して学生が住みたくなる、卒業後も住み続けたくなる仕組みを考えよう
- [49] 多様な住まい方ができるよう住まいの仕組みを検討しよう
- [50] 多世帯居住ができる住宅の誘導を検討しよう

団地と地域のつながりを強める、魅力的な屋外空間づくり



団地のゆったりした広場や遊び場、大きく育った樹木など緑豊かで落ち着いた屋外空間は、通りや公園など、周辺のまちの価値と連動することで、団地の住環境を、より豊かなものにしています。

その空間価値をお住まいの方へ配慮しつつ、周囲に開いていくことで、団地と地域のつながりを強め、居住者の安心とまちのにぎわいの両方を生み出す空間整備について、団地居住者、UR 都市機構、地域住民を含めて検討していきます。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

団地の空間を活用したイベント等の拡充や緑を育む仕組みづくり

- 団 事 行**・団地の広場・遊び場を活用したイベントの実施：夏祭り・秋祭りなど現在行われている団地の広場を使ったイベントや催しを充実させたり、新たなイベントを検討する〔団地自治会、UR 都市機構、富士見台地域まちづくり担当〕
- 団 事 行**・芝刈り・草刈り・花壇づくり・樹木剪定など、地域の魅力資源として団地の緑を地域で守り、育むための仕組みづくりを検討する〔団地自治会、UR 都市機構、富士見台地域まちづくり担当／環境政策課〕

緑豊かな UR 国立富士見台団地

次に取り組みたいこと

周辺地域と団地空間の連続性を高める

- 096

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

周辺地域と有機的につながる、まちの元気を生み出す団地屋外空間の実現

市民 団 事 行・居住者はもちろん、地域の安心と賑わいにもつながる屋外空間の有効活用を実現し、団地と地域の協働により継続的にマネジメントする〔市民、団地自治会、地域活動団体、事業者等、UR 都市機構、行政〕



富士見台地域まちづくりの6つの整備方針

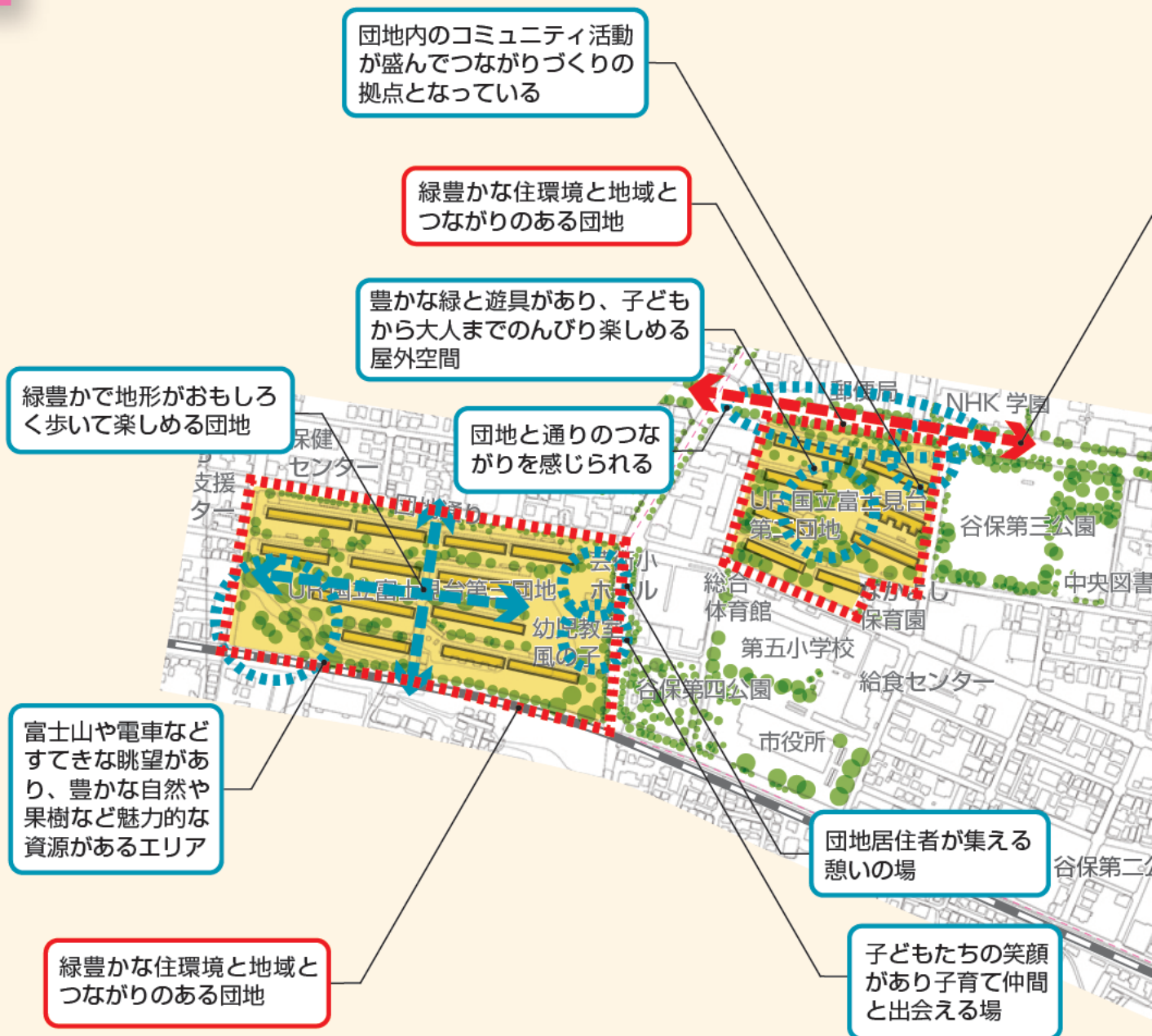
まちをよくする取組

- [26] ゆっくりひと休みできるスポットを増やそう
- [28] 健康づくりの視点で歩いて回れる環境を充実させよう
- [29] 団地を開き、市民の散歩道にして、まちの回遊性を向上させよう
- [33] バリアフリー化を進めよう
- [46] 団地居住者のプライベート空間を確保するために、敷地活用のルールやマナーに配慮しよう
- [47] 団地での行事や活動をもっと多くの人に発信し、地域とのつながりをつくろう
- [68] 団地の緑を継承するために、市民みんなで楽しめる空間づくりや使い方を検討しよう
- [70] 市民も参加できる緑の維持管理の仕組みづくりを進めよう
- [72] 団地と通りの豊かな緑のつながりをつくろう
- [75] 富士見台地域の印象的な緑を保全し、緑の拠点にしよう
- [79] 脱炭素社会の実現に向けた取組を心がけよう

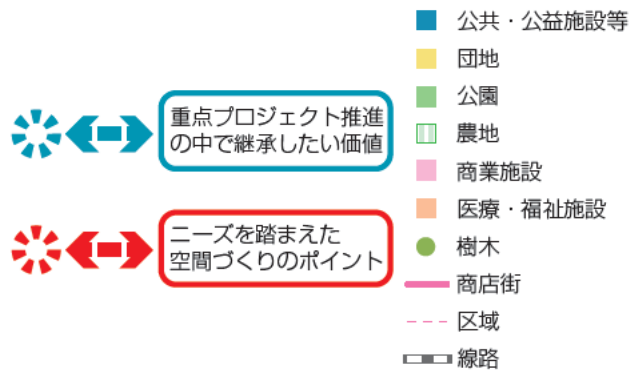
[空間づくりのポイント]

※区域線や計画線は、大まかな位置を示すものです。
(正確な位置を示すものではありません)

UR国立富士見台団地をモデルとした住みたくなる・住み続けられる環境整備プロジェクト



凡例



街路樹のシンボリックな空間と調和した沿道の街並み形成

歩いて楽しめる団地内の緑道

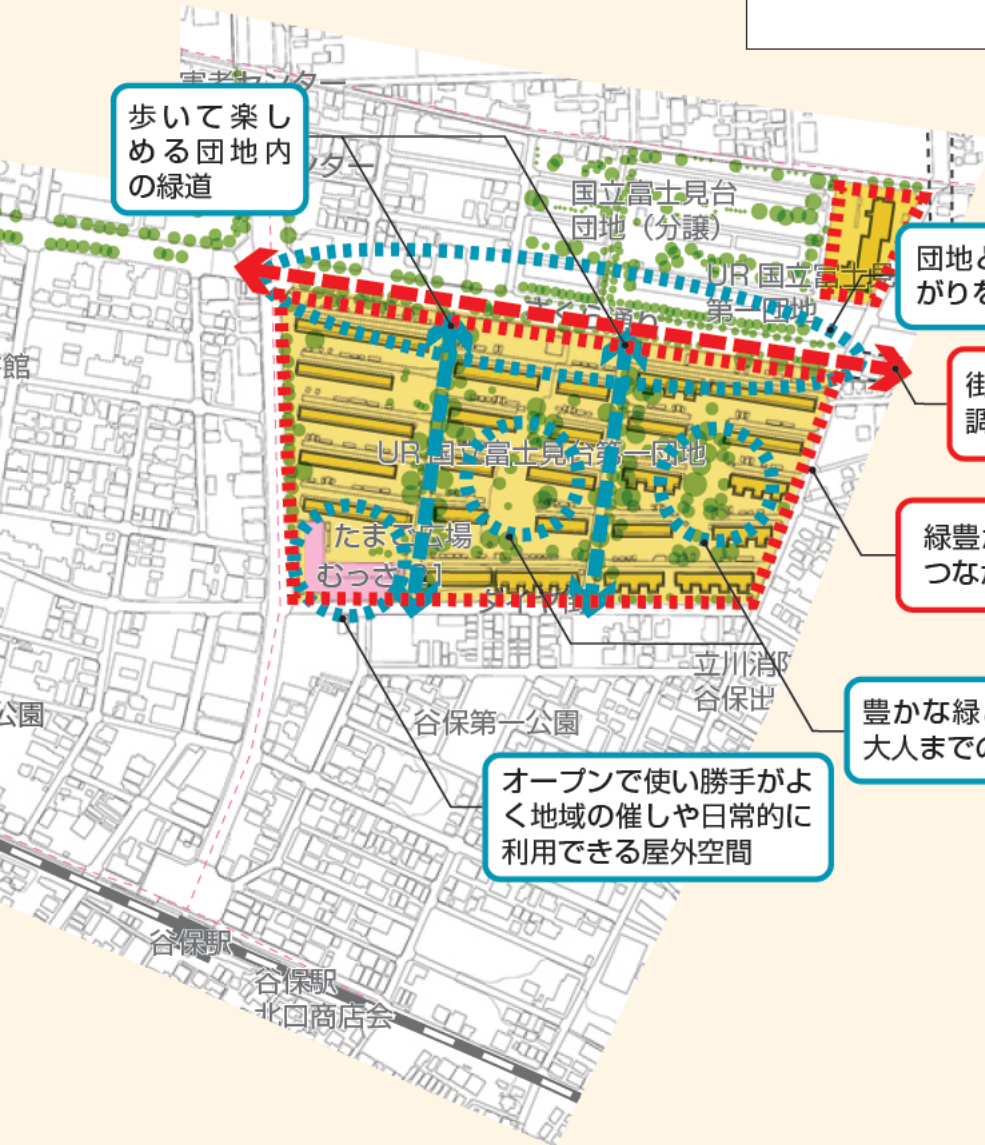
団地と通りのつながりを感じられる

街路樹のシンボリックな空間と調和した沿道の街並み形成

緑豊かな住環境と地域とつながりのある団地

豊かな緑と遊具があり、子どもから大人までのんびり楽しめる屋外空間

オープンで使い勝手がよく地域の催しや日常的に利用できる屋外空間



project
09

未来に向けた重点エリア検討 プロジェクト

(重点エリア：市役所を中心とした公共施設^{*}が集積するエリア)

^{*}公共施設とは公共建築物と公園を示す



市役所をはじめとした大型公共施設が集中するエリア（以下、重点エリアという。）は、グリーンインフラとして多様な使い方ができる谷保第三公園や第四公園、緑が連続するセミパブリックな空間価値を持つ UR 国立富士見台団地が立地しています。さらに周囲には、立ち寄りとなる魅力的店舗など暮らしに関わる多様な施設が集積するなど、国立市全体の魅力を象徴するエリアのひとつです。

その重点エリア内の公共施設の多くが今後20年間で段階的な更新時期を迎えるにあたり、行政は、『国立市公共施設再編計画』を策定し再編事業を進めています。この時期を契機と捉え、国立市の未来に向けて、市民、地域活動団体、行政、事業者等が協力して、公共施設の再編を発展させ、住みたい・住み続けたい市民を増やし、まちへの愛着心を育むための土台となる地域全体の再編をめざしていきます。

公共施設再編を活用した未来に向けた国立市の重点エリアの創出



市役所をはじめとした大型公共施設の再編を行う過程の中で、市有地周辺に位置する UR 国立富士見台団地とも連携しながら、今の暮らしやすさと利便性をさらに向上させ、多彩な暮らしの物語が生まれる、持続可能なまちの基盤の再整備を進めていきます。再編期間は、第五小学校の新校舎建設から市役所再編までの約 20 年間を目標とします。

STEP 1

すぐに取り組みたいこと
すでに取り組んでいること

公共施設再編を核とした重点エリアの将来イメージの検討

- 市民・団・行・重点エリアの今ある魅力を継承する〔市民、地域活動団体、行政〕
- 行・公共施設の将来の役割・機能・ゾーニング・規模等を検討する〔行政〕
- 市民・行・土地所有者等をはじめとした関係者との丁寧な協議を行う〔市民、行政〕

STEP 2

次に取り組みたいこと

将来を見据えて公共施設の再整備スタート（約 10 年後）

- 行・まちの将来を見据えた公共施設の再編（第五小学校の新校舎建設、学校給食センター用地の活用、保健センターを含めた医療拠点の再整備など）に着手する〔行政〕
- 市民・団・事・行・市民との協働により公共施設のあり方を検討する〔市民、地域活動団体、事業者等、行政〕

〔現状・課題等〕

国立市富士見台地域は、昭和 30 年代後半に土地区画整理による基盤整備を行った地域であり、市役所のほか多くの公共施設や教育・文化施設が集積しています。これらの多くの公共施設が段階的に更新時期を迎えるにあたり、だれもが暮らしやすいコンパクトなまち（『国立市公共施設再編計画』まちづくりの基本より）を実現するため、将来の人口動向や市の財政状況、市民ニーズ、暮らしやすさと効率性の両立（再編計画の圏域の考え方）、周辺環境への影響等の様々な与条件を整理し、まち全体を俯瞰して計画的な更新をどのように行っていくべきかが課題となっています。

公共施設再編の検討にあたっては、富士見台地域のまちづくりにおいて、これまでたくさんの対話から見つけた「場所の価値」を尊重し、さらに拡充していく視点が大切になります。

重点エリア内の公共施設の再編を進めるうえで留意すべき項目として、学校給食センター用地の活用、保健センター、医師会館、歯科医師会館、商工会館の今後の方針、東京都の消防出張所の建替え、その他有償借地の解消などがあります。



行政計画マップ

①福祉会館

令和 9 (2027) 年：外壁改修予定
令和 11 (2029) 年：大規模改修予定

②くにたち中央図書館

令和 8 (2026) 年：外壁改修予定
令和 16 (2034) 年：中規模修繕予定

③なかよし保育園

令和 8 (2026) 年：外壁改修予定、
中規模修繕予定

④学校給食センター

令和 5 (2023) 年：移転予定

⑤国立第五小学校

令和 4 (2022) 年：マスタープラン検討開始

令和 5 (2023) 年：基本設計着手予定

令和 10 (2028) 年：新校舎建設予定

⑥国立市役所

令和 7 (2025) 年：建替え検討開始
令和 22 (2040) 年：市役所建設予定

⑦くにたち市民芸術小ホール

令和 7 (2025) 年：大規模改修予定
令和 12 (2030) 年：外壁改修予定

⑧くにたち市民総合体育館

令和 6 (2024) 年：中規模修繕予定
令和 12 (2030) 年：外壁改修予定
令和 19 (2037) 年：建替え検討開始

⑨保健センター

令和 5 (2023) 年：外壁改修予定
令和 10 (2028) 年：借地契約満了

STEP
3

最終的に実現したいこと（めざす姿）

だれもが安心して、多彩な暮らしを楽しめる、コンパクトで持続可能なまちの実現（約 20 年後）

- 行・重点エリア全体で様々な分野での機能更新・再編を図り拠点を創出する〔行政〕
- 行・市役所庁舎等の大規模公共施設の改築に着手する〔行政〕
- 行・東京都の消防出張所建替えに併せて防災機能を向上させる〔行政〕



公共施設（図書館・市民活動センター・保健センター）と民間施設の複合（えにあす／恵庭市）



日常的な憩いやイベントで活用される半屋外空間を配した市役所（アオーレ長岡／長岡市）



図書館とともに整備された防災機能（災害時トイレ）を有する広場（武蔵野プレイス／武蔵野市）



富士見台地域まちづくりの 6 つの整備方針

まちをよくする取組

- [8] 公共施設を交流の場として活用しよう
- [11] 公共施設で培われている多様なコミュニティがつながる機会をつくろう
- [23] 災害時の安心を支える防災の拠点の整備を検討しよう
- [24] 歩ける範囲に医療や健康ニーズに応える場や機会を増やそう
- [25] 気軽に相談できる仕組みづくりを進めよう
- [26] ゆっくりひと休みできるスポットを増やそう
- [28] 健康づくりの視点で歩いて回れる環境を充実させよう
- [36] 施設等の目的地へアクセスしやすい方法や仕組みを整えよう
- [51] 多くの市民が利用したくなるワクワクする機能やデザインを検討しよう
- [52] だれでも気軽に立ち寄れて、利用しやすい施設のルールや設備を検討しよう
- [53] 文化創造の多機能集約型の拠点や公共施設によりにぎわいを創出しよう
- [56] 公園の使い方をみんなで検討し、公園利用を促進しよう
- [74] 民有地の緑が増える仕組みをつくろう
- [75] 富士見台地域の印象的な緑を保全し、緑の拠点にしよう
- [77] 富士見台地域の個性を活かした景観づくりを進め、その魅力を発信しよう
- [79] 脱炭素社会の実現に向けた取組を心がけよう
- [80] 富士見台地域に合わせた街並みのデザイン（調和・連続性・先進性・環境配慮等）を考えよう
- [89] 楽しみごとを通じてつながりをつくろう
- [90] 多様な人が関われる参加型の機会を創出しよう

[空間づくりのポイント]

※区域線や計画線は、大まかな位置を示すものです。
(正確な位置を示すものではありません)

未来に向けた重点エリア検討プロジェクト

- ・福祉会館
令和9(2027)年：外壁改修予定
令和11(2029)年：大規模改修予定
- ・くにたち中央図書館
令和8(2026)年：外壁改修予定
令和16(2034)年：中規模修繕予定
- ・なかよし保育園
令和8(2026)年：外壁改修予定、中規模修繕予定
- ・学校給食センター
令和5(2023)年：移転予定
- ・国立第五小学校
令和4(2022)年：マスタープラン検討
令和5(2023)年：基本設計着手予定
令和10(2028)年：新校舎建設予定
- ・国立市役所
令和7(2025)年：建替え検討開始
令和22(2040)年：市役所建設予定
- ・くにたち市民芸術小ホール
令和7(2025)年：大規模改修予定
令和12(2030)年：外壁改修予定
- ・くにたち市民総合体育館
令和6(2024)年：中規模修繕予定
令和12(2030)年：外壁改修予定
令和19(2037)年：建替え検討開始
- ・保健センター
令和5(2023)年：外壁改修予定
令和10(2028)年：借地契約満了

UR 国立富士見台 第二・第三団地全体

緑豊かな住環境と地域と
つながりのある団地

公園に遊びにきた人
も立ち寄れる魅力的
な商業エリア

緑豊かで地形がおもしろ
く歩いて楽しめる団地

UR 国立富士見台第三団地

幼児教室
風の子

雲雀小
ホール
総合
体育館

谷保第四公園

富士山や電車など
すてきな眺望があり、豊かな自然や
果樹など魅力的な
資源があるエリア

団地居住者が集える
憩いの場

子どもたちの笑顔
があり子育て仲間
と出会える場

親水空間で遊んだり電車が見え
たり個性のあるスポットがあり
様々な過ごし方ができる公園

文化・芸術・運動・遊びなど
を多世代が楽しめるエリア

凡例



重点プロジェクト推進
の中で継承したい価値



ニーズを踏まえた
空間づくりのポイント

- 公共・公益施設等
- 団地
- 公園
- 農地
- 商業施設
- 医療・福祉施設
- 樹木
- 商店街
- 区域
- 線路

街路樹のシンボリ的な空間と調和した沿道の街並み形成

団地と通りのつながりを感じられる

だれもが集えて、好きな活動ができる広い公園

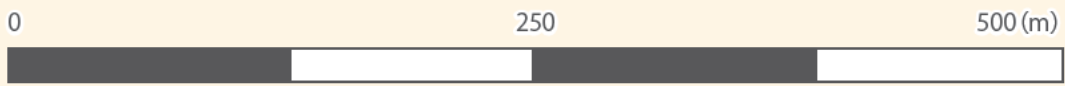
通りとつながりを感じられてひと休みできる空間形成

屋内外で子どもから大人まで楽しめる憩いの場

団地内のコミュニティ活動が盛んでつながりづくりの拠点となっている

豊かな緑と遊具があり、子どもから大人までのんびり楽しめる屋外空間

緑豊かで気持ちの良い屋外空間が
つながり市民の暮らしの質を
高める公共施設集積エリア



③コミュニティアセスメント研究会 名簿

○主査

氏名	所属	専門
新 雅史	流通科学大学 商学部 マーケティング学科 講師	地域社会学
井上 拓央	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 博士後期課程	都市工学
大友 和佳子	一般社団法人 JA 共済総合研究所 研究員	地域再生
木村 達之	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 修士課程 (令和 2(2020) 年 3 月修了)	都市工学
小泉 秀樹 ○	東京大学 先端科学技術研究センター 教授	共創まちづくり
後藤 純	東海大学 工学部 建築学科 特任准教授	都市工学
後藤 智香子	東京大学 先端科学技術研究センター 特任講師	都市工学
小山 弘美	関東学院大学 社会学部 現代社会学科 准教授	都市社会学
齋藤 啓子	武蔵野美術大学 造形学部 視覚伝達デザイン学科 教授	環境デザイン
柴戸 未来	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 修士課程 (令和 2(2020) 年 3 月修了)	都市工学
杉崎 和久	法政大学大学院 公共政策研究科 教授	公共政策
祐成 保志	東京大学大学院 人文社会系研究科 社会文化研究専攻 准教授	社会学
長 奈緒子	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 修士課程 2 年	都市工学
永田 智子	慶應義塾大学 看護医療学部 教授	在宅看護学
成瀬 昂	東京大学大学院 医学系研究科健康科学・看護学専攻 講師	地域看護学
藤山 晃太郎	東京大学 工学部 都市工学科 4 年 (令和 2(2020) 年 3 月卒業)	都市工学
松本 博成	東京大学大学院 医学系研究科 地域看護学分野 博士課程	地域看護学
真鍋 陸太郎	東京大学大学院 工学系研究科 都市工学専攻 助教	都市工学
山本 なつ紀	慶應義塾大学 看護医療学部 助教	在宅看護学

令和 3(2021) 年 3 月時点

五十音順

国立市富士見台地域重点まちづくり構想

令和 3（2021）年 5 月



発行

国立市 都市整備部 富士見台地域まちづくり担当
〒186-8501
東京都国立市富士見台2-47-1
<https://www.city.kunitachi.tokyo.jp/>

電話 042-576-2111（内線 383）
FAX 042-576-0264
メール sec_fuji@city.kunitachi.lg.jp

編集

国立市富士見台地域まちづくり協議会

編集協力

株式会社 石塚計画デザイン事務所